

堤正勝編
兒訓必讀

卷二

176
3
130

大日本教育會書籍館

一	一	一
三	三	九
五	四	函
號	架	
六		
册		

册

明治十九年六月四日内務省贈付



東京 堤

正勝 編

兒訓必讀卷二

子供のつとめ

第一 一身の心得

○人のちゑは學問によ

學問

巴川本賣

卷二

一

全書

上

りてひらく。大和俗訓

○學問のすゝむによりて。ちぬもしだいにます。

童子訓

○教をうけしことはわ

強勉

するまどとねもへ。童子訓

○あごなる遊をなすべ

からず。全上

○いたづらにひまをつ

ひやすべからず。全上

實信

○何ごとも。たこたらざればなる。家道訓

○をさなき時より。心をまことにし。いつはりなかるべし。童子訓

○かりろめにも。人をあざむくべからず。全上

○人とやくろくせしこと。はろむくまどと。たもへ。全上

言謹

貞詩必讀 卷一

三 金澤堂

○言をつゝしめばわざ

はひなし。初學訓

○詞は和らかにかどた

ゝざるをよしとす。林子平父兄訓

○理くつがましく詞を

制節

つかふべからず。全上

○すべて危きところに

はちかよるべからず。童蒙須知

○のみくひをつゝしめ

ば病なし。初學訓

巴川公費 卷一 三

第二 父母及師より事ふる

心得

○ 孝をつくすより。たいせつなる。たこなひなし。

孝經

○ ち、母の心をよるこ

ばしむるは孝なり。養生訓

○ 父は、をいからしむ

るは不孝なり。全上

○ 父母のこゝろにさか

らふべから

ず。初學訓

○父母のを

しへあらば。

つゝしんで



まくべし。全上

○師のたむは。父にたな

ど。小學

○師をたふとびうやま

ふべし。童子訓

第三 兄弟の間の心得

○弟いもうとは。兄あね
 を。うやまふこと。父母と。
 ねな。どくすべし。林子平父兄訓
 ○兄弟は。弟妹を。いたは

ること。子のごとくすべ

し。全上

○兄は。言行をつゝし。み。
 弟のてほんとなるべし。

日新館童子訓

第四 友どちにあはる心得

○友どちとまどはるに。

禮あつければあらうひ

なし。大和俗訓

○争はざるは人よまじ

はるのみちなり。大和俗訓

○したしみてなれくし

きは交りをやぶる本な

り。曲禮

○われよりまざる人を。

友だちとせよ。論語

第五 作法

○歩むには。足をたかく

あげざれ。曲禮

○立にかとあしだちす

べからず。常五

訓

○坐るには。

かたちをう

ごかさゝる



見川公實 卷一 身請必讀

を。ぎ。と。す。 曲禮

○坐りては。兩足をのべ

ざるべし。 五常訓

○人のはきものをふむ

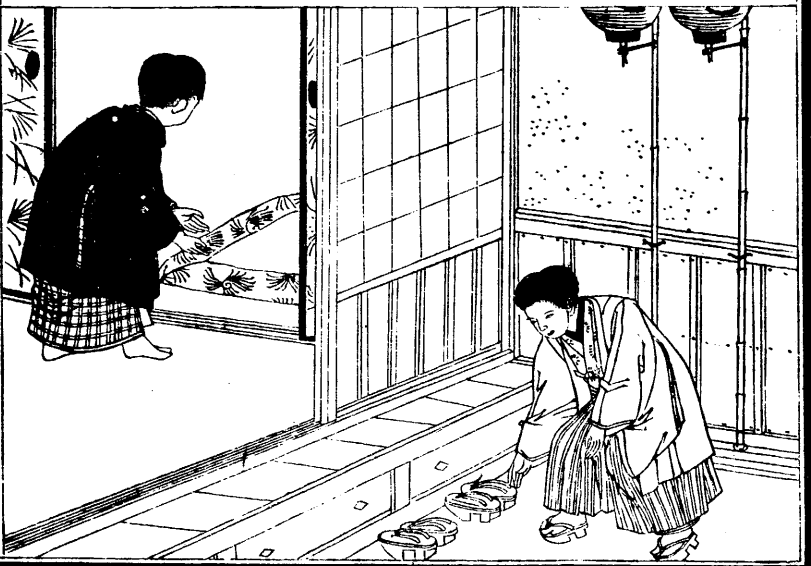
べからず。 大和小學

○人のしき

ものをふむ

べからず。 全上

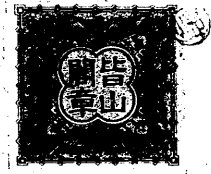
兒訓必讀卷二終



東洋圖書公司
金港堂

明治十九年二月廿六日版權免許

價五錢



編者并
出版人

東京府士族

堤

正

勝

麴町區飯田町六丁目十九番地

東京本町三丁目十七番地

金港堂原亮三郎本廬



大賣捌

大阪北本賣寺町四丁目

金港堂原亮三郎支店

岐阜

金港堂支店

賣捌

各府縣下代理大賣捌所